

様

年 月 日

TS-1/アクブラ療法

この治療では次の2種の薬を使用します。

ネオプラチン（アクブラ）：細胞のDNAや蛋白合成を妨げ効果を現します。

TS-1（ティーエスワン）：細胞のDNAやRNAの合成を妨げ効果を現す。

<投与スケジュール> . . . 3週間 1コース 今回 コース目

| <薬品名> <投与方法・時間> | <薬の作用> | 1コース目 | | | | 2コース目 | | |
|-------------------------------------|-------------|--------|-----------|-----|-----------|-------|-----------|------|
| | | 1日目 | | 8日目 | | 15日目 | | 22日目 |
| デキストロ注・ケラセトロン注 <点滴 30分> | アレルギー・嘔気の予防 | | 休薬 | | 休薬 | | 休薬 | |
| ネオプラチン（アクブラ） 生食500ml <点滴 60分> | 化学療法剤 | | 休薬 | | 休薬 | | 休薬 | |
| ティーエスワン <内服 日間> <休薬 日間> | 化学療法剤 | 日間服用する | | | | 休薬 | | |

<薬剤投与日の注意>

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 投与開始後、アレルギー症状が現れることがあります。息苦しさや胸の痛み、脈の乱れ、顔の火照り、発汗異常、低血圧、かゆみ、発疹などの不快症状があればすぐに申し出てください。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

<備考>

<副作用>

| 副作用と症状 | 発現時期、頻度 | 対策 | 備考 |
|-----------------------------------|-------------|---|----|
| 白血球減少 発熱 風邪様症状 | 1～2週で最低 | うがいや手洗い・休養を心がけて下さい。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。 | |
| 血小板減少 出血 | 2週間前後 | けがや打撲、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。 | |
| 貧血 倦怠感、息切れ | — | 採血結果によっては、造血剤を使ったり、輸血をすることがあります。 | |
| アレルギー症状 顔がほてる、息苦しい 胸が苦しい、発疹 | 開始直後 ～数日 | あらかじめ3種の予防薬を使いますが、症状があればすぐに申し出て下さい。 | |
| 吐き気・嘔吐 | 比較的少ない | 我慢せずに吐き気止めを使用してください。 | |
| 下痢・腹痛 | 重度 3人に1人 | 水分摂取を心がけて下さい。下痢止めや整腸剤を使ったり、点滴をする。 | |
| 倦怠感 | 3人に1人 | | |
| 脱毛 | 2～3週間後に現れる。 | 治療が終了すれば徐々に回復します。気になる方は帽子やスカーフ・かつらなどをお使い下さい。 | |
| 発熱 | — | 必要時解熱剤を使用してください。 | |
| 間質性肺炎・肺線維症 | 少ない | 息苦しさ、空咳、発熱など、早期発見が大事。すぐに申し出て下さい。 | |
| その他：口内炎、便秘、肝障害、心機能障害、肺障害など | | | |

<注意事項>

- ★ ここにあげた副作用は、代表的なものです。必ずしもこれらの症状が現れるとは限りません。もし副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申し出て下さい。